

令和5年度 第1回 生活支援体制整備委員会次第
(兼第1層生活支援コーディネーター協議体会議)

日時 令和5年7月13日(木)午後1時30分から3時

会場 Mウイング4-4会議室

1 開会

2 あいさつ

3 報告事項

- (1) 第9期介護保険事業計画・高齢者事業計画の策定について (資料1)
- (2) 令和5年度生活支援体制整備事業報告 (資料3)
 - ア 人材育成講座の実施について
 - イ 通いの場の実施状況とアフターコロナの取り組みについて

4 協議事項

- (1) 高齢者の社会参加や就労支援への取り組みについて (資料2)
- (2) NPO、医療・社会福祉法人、企業などとの協働事例紹介と今後の方向性
 - ア ワーカーズコープ
 - イ NPO 法人サポートセンターとまり木 (資料4)

5 その他

令和5年度第2回生活支援体制整備委員会 2月頃予定

6 閉会

令和5年度 生活支援体制整備委員会 名簿

	委員名	構成団体名
	石塚 あづさ	長野県介護支援専門員協会
	伊藤 智康	長野県住宅供給公社 松本事務所
	伊藤 由紀子	ワーカーズコープ 集いの場ふらっと
	臼井 真智子	JA松本ハイランド
	海野 幸頼	松本市町会連合会 (第三地区連合会長)
	小仁熊 恭夫	松本市高齢者クラブ連合会
副会長	清澤 秀彦	長野県社会福祉士会
	草深 邦子	松本市民生委員・児童委員協議会
会長	尻無浜 博幸	松本大学総合経営学部
	杉本 裕美子	NPO法人 ケアタウン浅間温泉
	曾根原 考俊	ハローワーク
	平林 泉	松本地域シルバー人材センター
	溝上 浩康	介護老人保健施設 ハーモニー
	度会 多恵子	長野県介護福祉士会
事務局	大月 強	福祉政策課長
	野口 典宏	福祉政策課 地域福祉担当係長
	丸山 花代子	福祉政策課 地域福祉担当係長
	井口 翔太	福祉政策課 地域福祉担当
	櫻井 まゆ子	高齢福祉課 福祉担当
	床尾 拓哉	地域づくり課 地域づくり担当係長
	塩原 敏宏	松本市 社会福祉協議会 生活支援係長兼包括支援係長
	竹川 洋子	松本市 社会福祉協議会 第2層生活支援コーディネーター (中央地区)
	小口 麻左美	松本市 社会福祉協議会 第2層生活支援コーディネーター (本郷地区)

(報告事項)

第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定について

1 趣旨

介護保険法の規定に基づき、3年を1期として策定する「介護保険事業計画」及び老人福祉法の規定に基づく「高齢者福祉計画」について、現計画である第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画（以下「第8期計画」という。）が令和5年度で計画期間満了となることから、令和6年度を始期とする第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画（以下「第9期計画」という。）の策定及び計画の基礎資料として実施した高齢者等実態調査の結果について報告するものです。

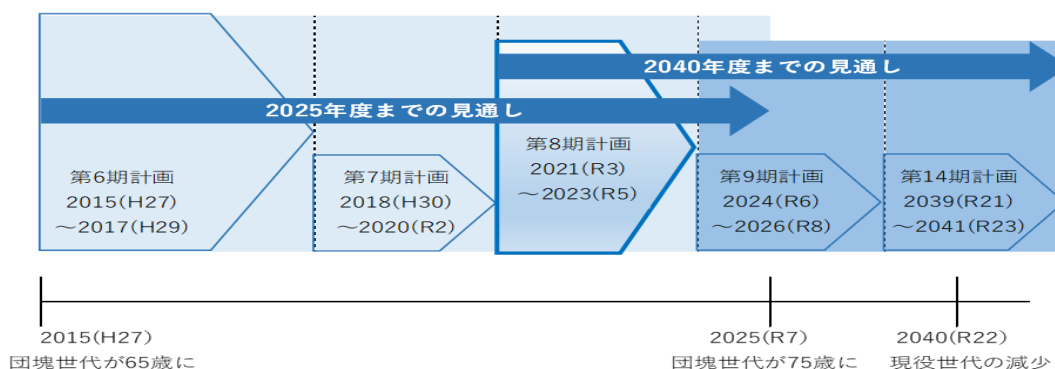
2 経過

- 3. 3 第8期計画策定（計画期間：令和3年度～令和5年度）
- 4. 1 2 高齢者等実態調査実施
- ～5. 1
- 4. 1 7 松本市社会福祉審議会（以下「社会福祉審議会」という。）へ諮問
- 5. 2 5 第1回社会福祉審議会高齢者専門分科会開催

3 第9期計画の概要

(1) 計画の基本的な考え方

- ア 計画期間中に団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）を迎え、今後の高齢者人口は増加傾向が見込まれる。
- イ 第8期計画で進めている取組みを充実・強化し、「地域包括ケアシステム」構築を更に前進させる。
- ウ 松本市第11次基本計画及び関連する諸計画の基本施策となるフレイル予防、ジェンダー平等、地域づくりセンターの更なる機能強化等、新たな視点を反映させた時代に即した計画とする。



(2) 計画期間

令和6年度～令和8年度（3年間）

4 策定のスケジュール（予定）

- 5. 4. 17 社会福祉審議会（諮問）
- 5. 25 第1回社会福祉審議会高齢者専門分科会
- ~ 10 第2回・第3回高齢者専門分科会
- 社会福祉審議会（答申）
- 11 市議会へ、計画（案）及び保険料（案）の協議
- 12~1 パブリックコメントの実施
- 6. 1 市議会へ、パブリックコメント報告、計画（案）及び保険料(案)の報告
- 2 保険料議案提出
- 3 第9期計画策定

5 高齢者等実態調査について

(1) 調査の目的

第9期計画策定の基礎資料とするため、長野県と共同し、高齢者の生活実態や介護サービスの利用に対する意向等に関し調査を実施

(2) 居宅要介護・要支援認定者等実態調査

ア 抽出方法 要介護・要支援の認定を受けている在宅の第1号被保険者（65歳以上）、第2号被保険者（40歳～64歳）及び要介護・介助者から無作為抽出

イ 実施期間 令和4年12月14日～令和5年1月13日

ウ 調査項目 (1)・(2)共通項目、在宅サービス利用状況、介護者の状況等

エ 回答率 1,663人/3,000人（55.4%）

〔前回〕 1,555人/3,000人（51.8%）

(3) 元気高齢者等実態調査

ア 抽出方法 要介護・要支援の認定を受けていない在宅の第1号被保険者から無作為抽出

イ 実施期間 令和4年12月14日～令和5年1月13日

ウ 調査項目 (1)・(2)共通項目、介護予防への意識・取り組み、認知症等

エ 回答率 653人/1,000人（65.3%）

〔前回〕 619人/1,000人（61.9%）

(4) 結果の概要

別冊1 「松本市高齢者等実態調査結果報告書（概要版）」のとおり

6 今後の予定

高齢者専門分科会での丁寧な説明や十分な議論を重ねるとともに、パブリックコメントにより、市民の意見を反映させた計画を策定します。

松本市高齢者等実態調査結果報告書（概要版）

1 調査目的

介護保険法に基づき、市内高齢者の生活実態や介護サービスの利用に対する意向等に関する調査を実施し、第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定に向けた基礎資料とするために調査したもの

2 調査概要

長野県が主体となり、全県統一の設問を設定し、調査データを集計したもの

(1) 調査期間

令和4年12月から令和5年1月まで

(2) 調査対象者及び回答率

調査名	対象者（人）	回答者(人)	回答率(%)
〔A調査〕 居宅要介護・要 支援認定者等実 態調査	要介護・要支援の認定を受けている在宅の被保険者（第2号被保険者を含む）及びその介護者（以下「A調査（要介護高齢者等）」という。）	3,000	1,663 (1,555) 55.4 (51.8)
〔B調査〕 元気高齢者等実 態調査	要介護・要支援の認定を受けていない在宅の第1号被保険者（以下「B調査（元気高齢者等）」という。）	1,000	653 (619) 65.3 (61.9)

※括弧内は前回調査値

3 松本市の状況

(1) 総人口・高齢者人口及び高齢化率



(2) 要支援・要介護認定率



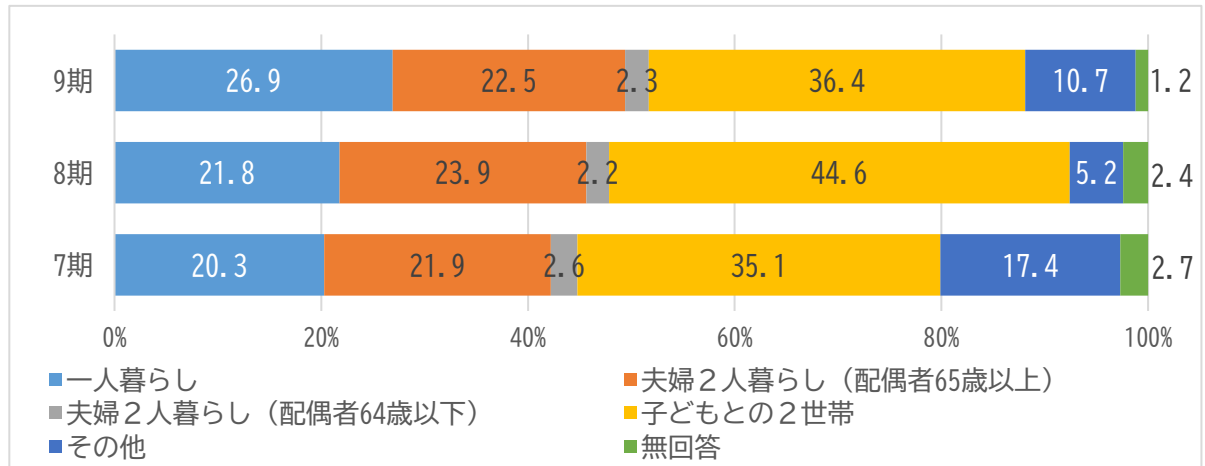
区分	7期	8期	9期
要支援1	1,190	1,388	1,305
要支援2	2,177	2,522	2,568
要介護1	1,887	1,989	2,130
要介護2	2,285	2,274	2,119
要介護3	1,582	1,414	1,172
要介護4	1,226	1,219	1,147
要介護5	1,007	979	851
合計	11,354	11,785	11,292

4 結果の概要

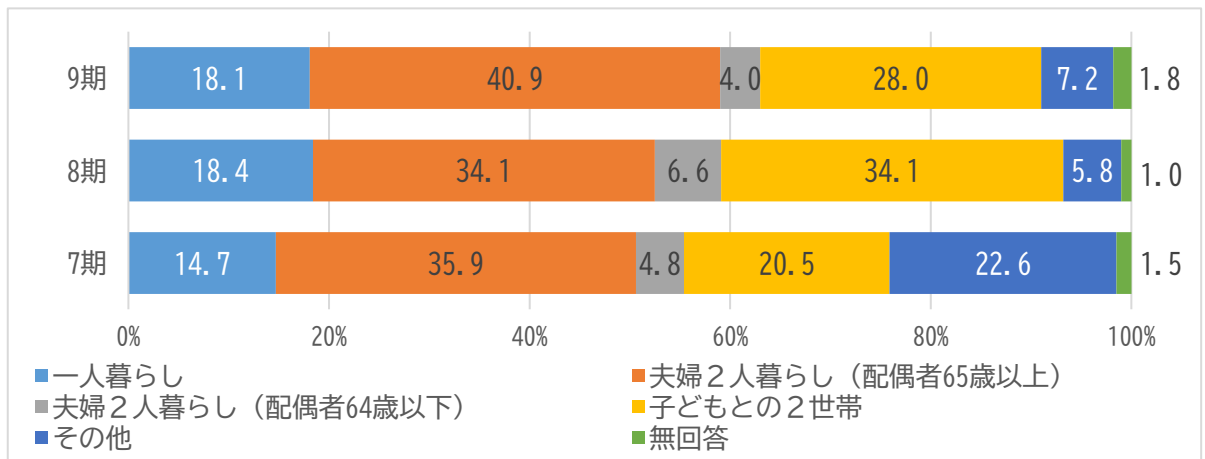
(1) 家族構成

今回の調査結果では、一人暮らし、夫婦二人暮らし（配偶者（夫・妻）65歳以上）の割合が、A調査（要介護高齢者等）及びB調査（元気高齢者等）ともに約5割を占めています。また、経年で比較すると、その割合が増加してきています。

〔A調査〕問1 家族構成【経年比較】



〔B調査〕問1 家族構成【経年比較】



(2) 社会参加について

地域の会やグループへの参加状況については、半数以上の方が参加しておらず、特にA調査（要介護高齢者等）の場合、8割以上となっています。

〔A調査〕問15 地域の会やグループへの参加状況

	全体	参加している	参加していない	無回答
回答数 (人)	1,663	255	1,384	24
構成比 (%)	100	15.3	83.2	1.4

〔B調査〕問18 地域の会やグループへの参加頻度

	全体	参加している	参加していない	無回答
回答数 (人)	653	300	350	3
構成比 (%)	100	45.9	53.6	0.5

詳細を見ると、ボランティアや町内会・自治会等の社会参加活動に多くの方が「参加していない」と答えています。

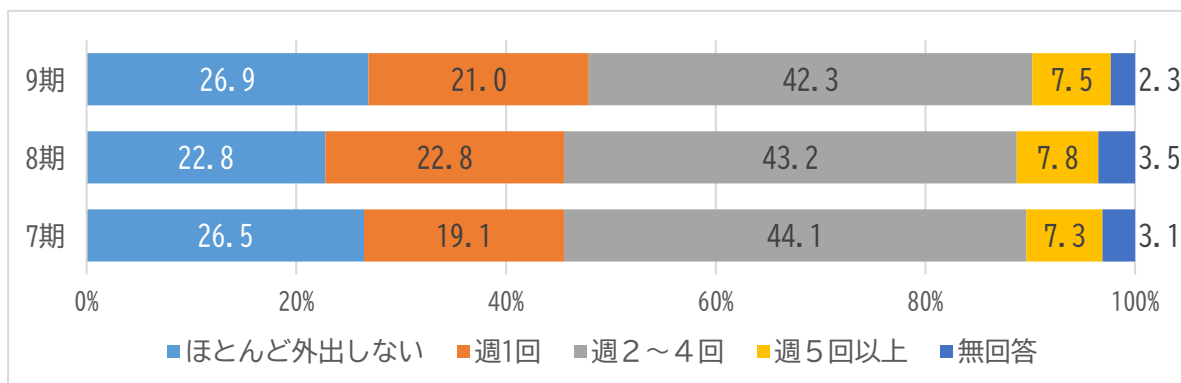
また、社会参加学習・教養サークルへの参加も少なく、「趣味や生きがいはあるか」の質問に対し、「思いつかない」と答えた人の割合が、B調査（元気高齢者等）は約3割（26.6%）に対し、A調査（要介護高齢者等）は約6割（58.1%）となっています。

(3) 運動(週に1回以上外出しているか)

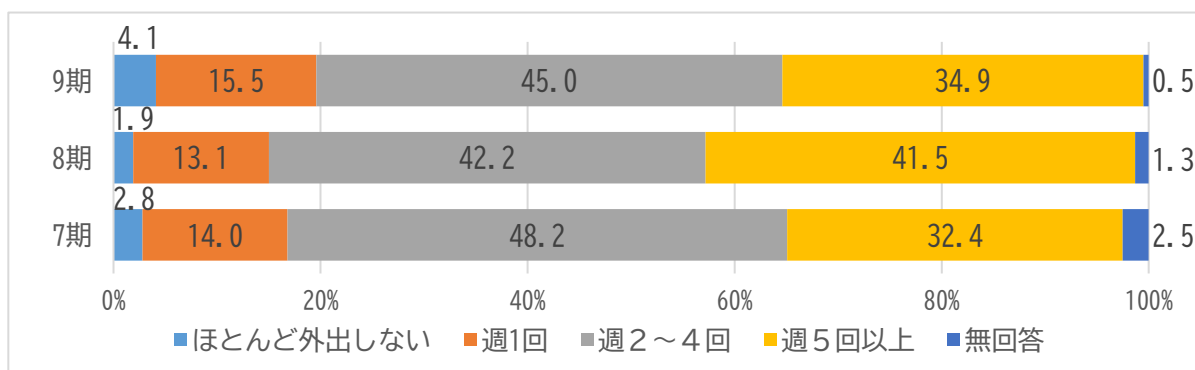
今回の調査結果では、A調査（要介護高齢者等）は全体の7割（70.8%）、B調査（元気高齢者等）では全体の9割（95.4%）が週1回以上外出すると答えています。一方で「ほとんど外出しない」と答えた人は、A調査（要介護高齢者等）では3割（26.9%）、B調査（元気高齢者等）では1割以下（4.1%）でした。

また、経年で比較すると、「ほとんど外出しない」と超えた得た人の割合が増加してきています。

〔A調査〕問6 運動（週に1回以上外出しているか）【経年比較】



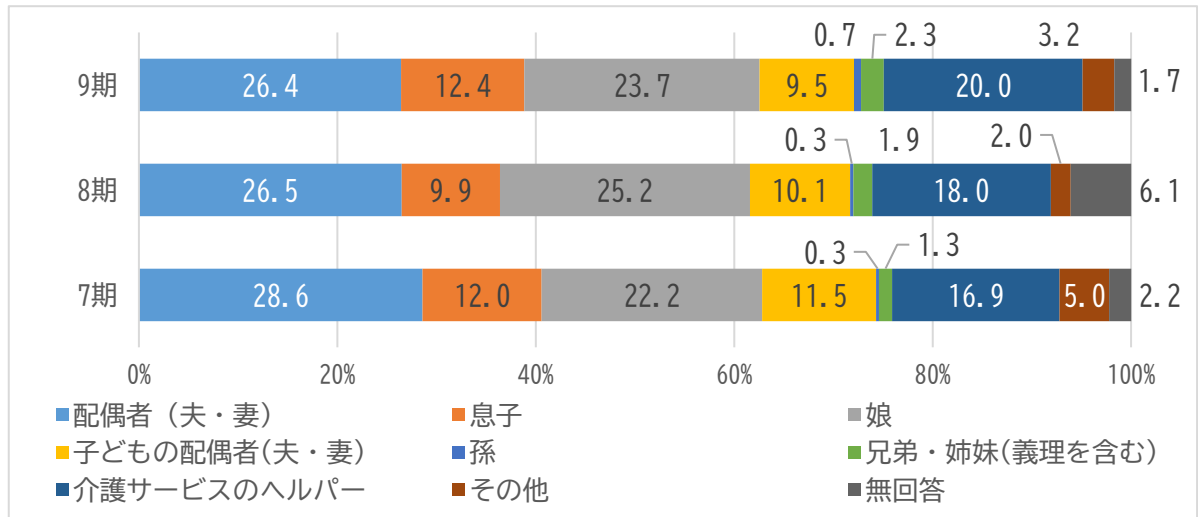
〔B調査〕問8 からだを動かすことについて ⑥週に1回以上は外出していますか。【経年比較】



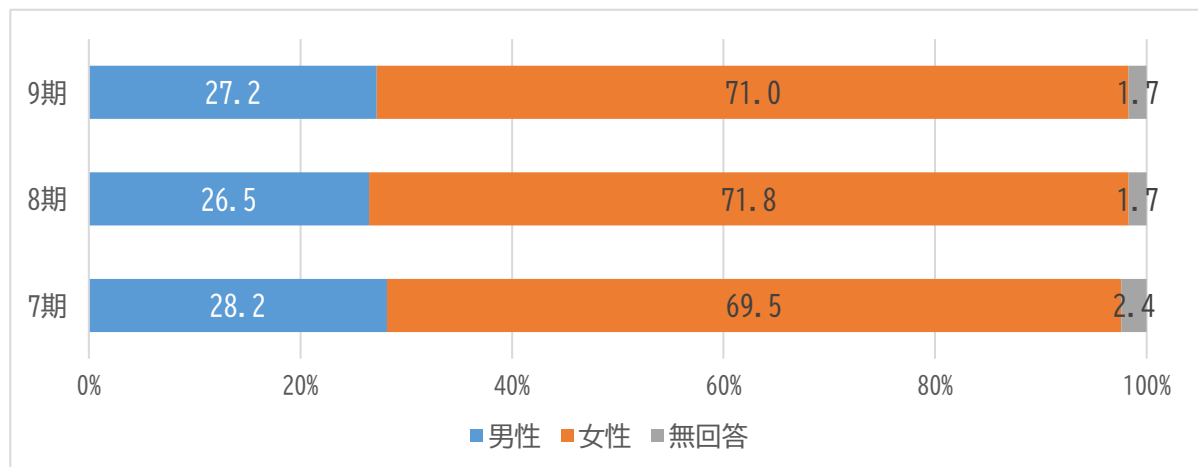
(4) 主な介護・介助者〔A調査（要介護高齢者等）〕

今回の調査結果では、主に介護・介助をしている人、配偶者（26.4%）、娘（23.7%）では、身近な家族が半数以上を占め、性別では、女性が男性に比べて約3倍となっています。また、年齢で見ると、50代以上の方が介護・介助をし、60代以上は、全体の7割近く（66.9%）を占めています。なお、経年比較では大きな変化はありませんでした。

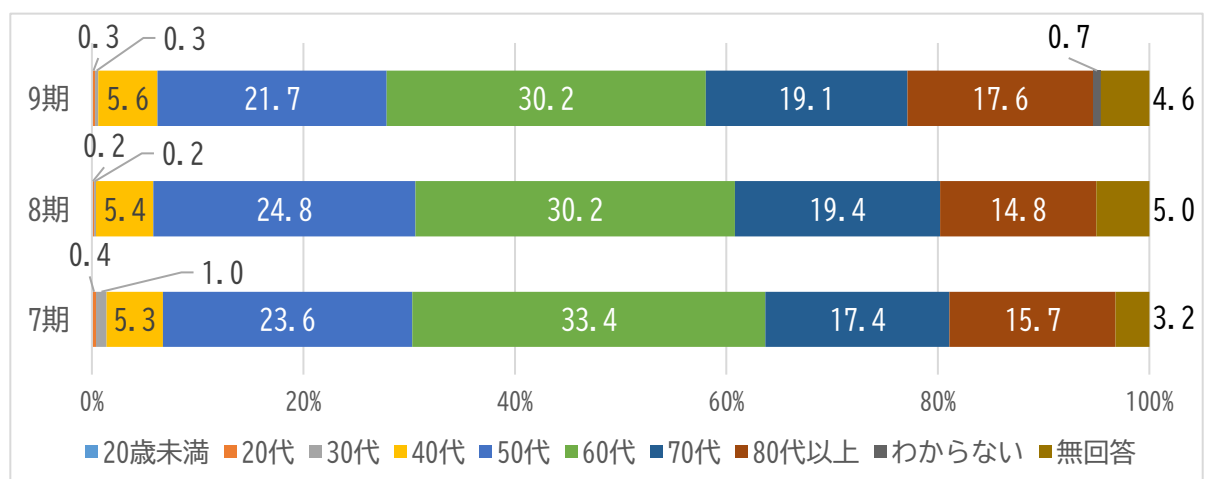
〔A調査〕問44-2 主な介護・介助者【経年比較】



〔A調査〕問44-3 主な介護・介助者の性別【経年比較】



〔A調査〕問44-4 主な介護・介助者の年齢【経年比較】

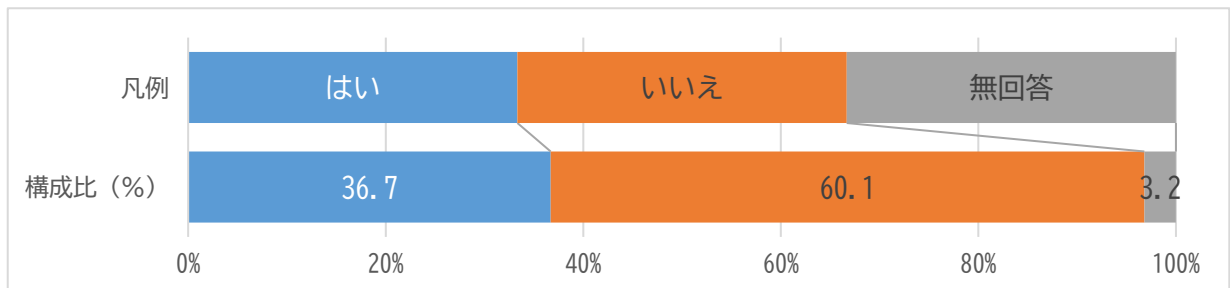


(5) 認知症の相談窓口について

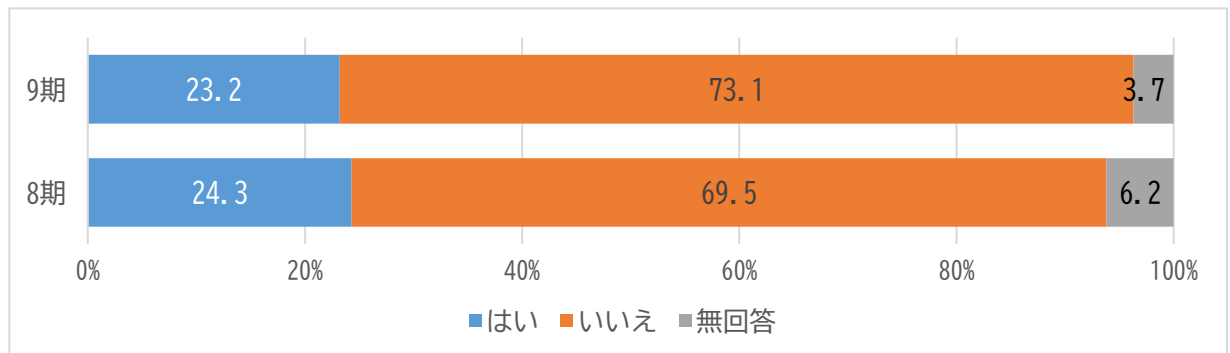
認知症に関する相談窓口の認知状況の質問では、「いいえ（知らない）」と答えた人がA調査（要介護高齢者等）、B調査（元気高齢者等）ともに「はい（知っている）」を大きく上回っています。また、経年比較でも同様の結果となっていることから、今後、広く周知するための施策が必要です。

認知症になっても安心して暮らせるため充実が必要なことの質問では、A調査（要介護高齢者等）、B調査（元気高齢者等）ともに、「認知症の受診・治療ができる病院・診療所」、「入所できる施設」、「専門相談窓口」等が多数を占めています。

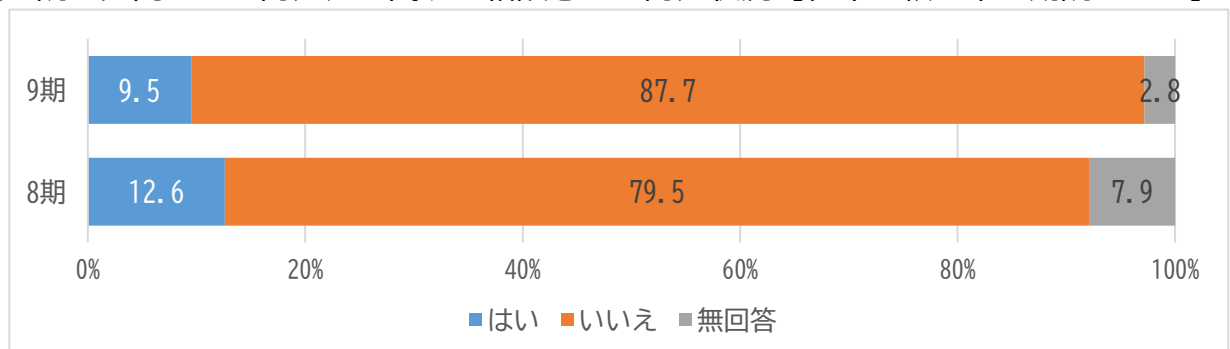
〔A調査〕問40 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人の有無



〔A調査〕問41 認知症に関する相談窓口の認知状況【経年比較：第7期調査なし】



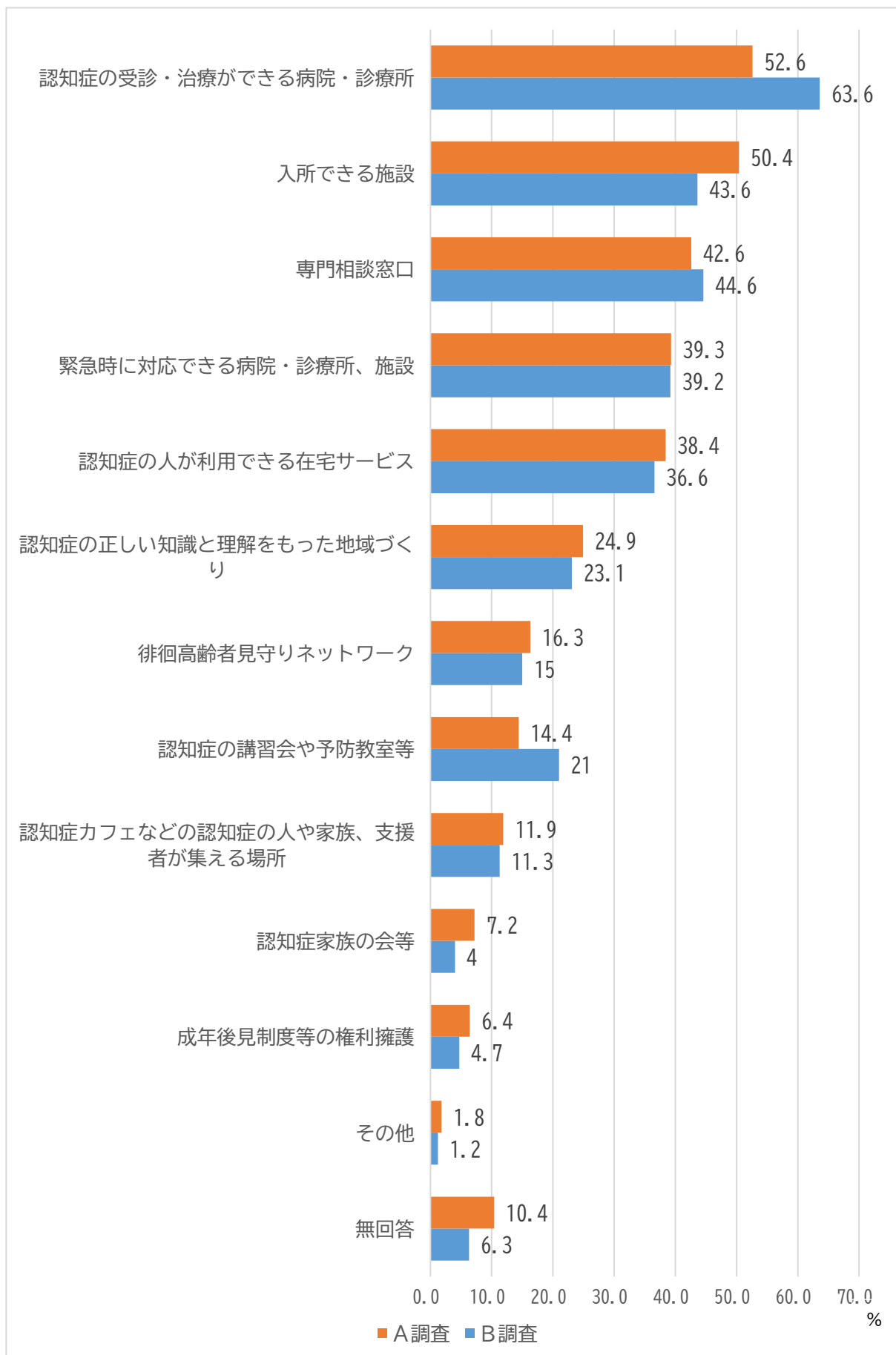
〔B調査〕問65 認知症に関する相談窓口の認知状況【経年比較：第7期調査なし】



〔A調査〕問43 認知症になっても安心して暮らすために充実が必要なこと

〔B調査〕問68 認知症になっても安心して暮らすために充実が必要なこと

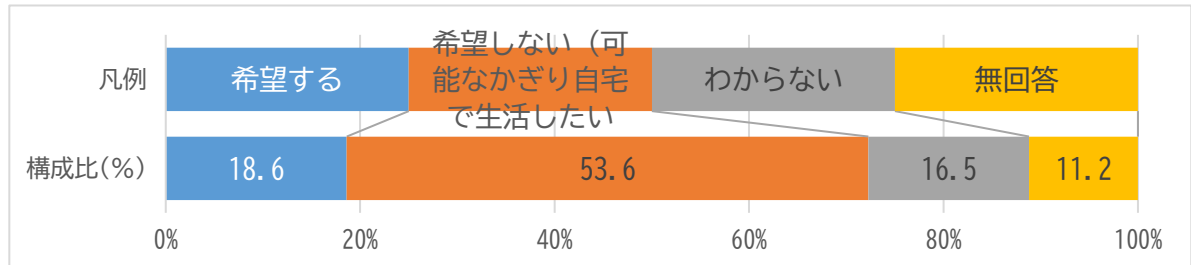
※A調査・B調査 複数回答



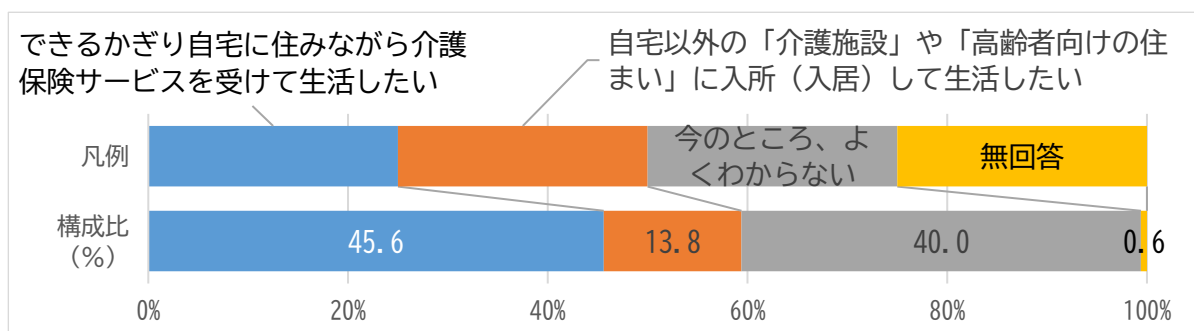
(6) 施設等の入所希望について

A調査（要介護高齢者等）及びB調査（元気高齢者等）ともに「可能な限り自宅で生活したい」、「できるかぎり自宅に住みながら介護保険サービスを受けて生活したい」と在宅志向が強いことがうかがえます。

〔A調査〕問50 施設等への入所（入居）希望の有無

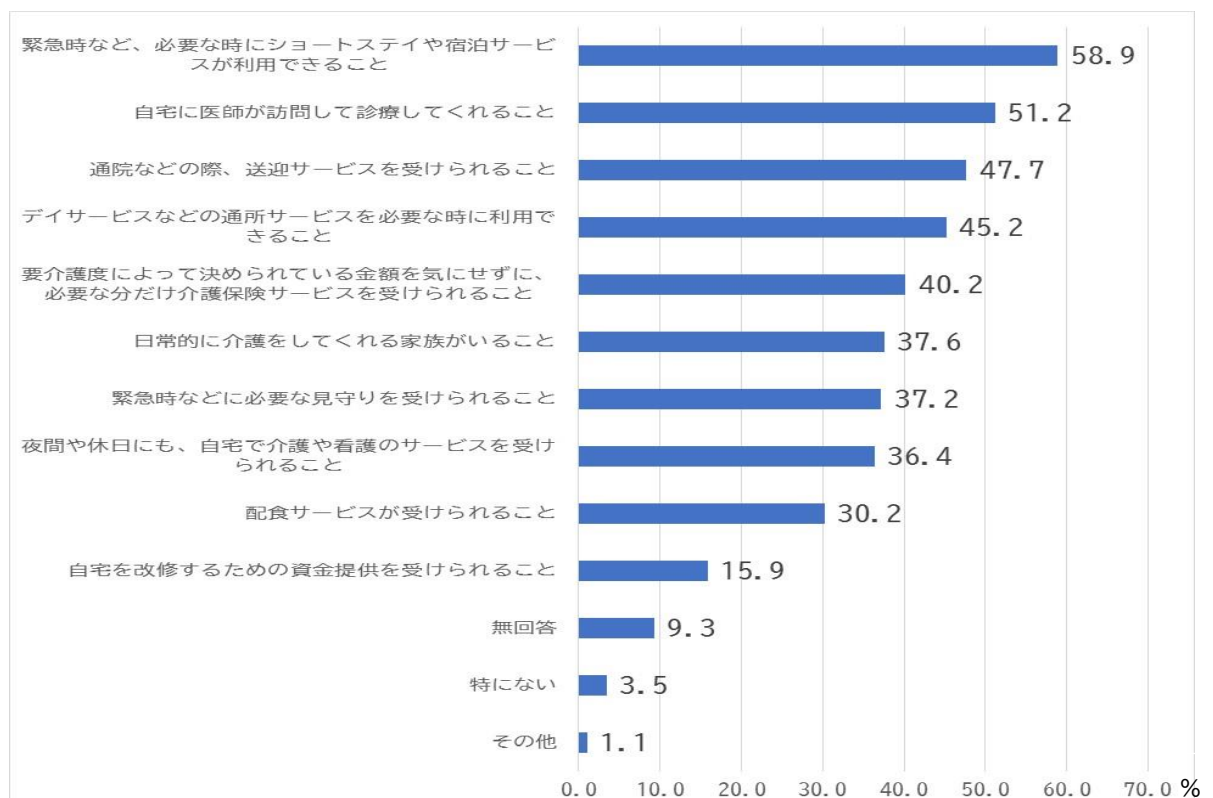


〔B調査〕問49 介護が必要となった場合、介護を受けたい場所



自宅で暮らし続けるために、あればいいと思う支援は、「必要な時にショートステイや宿泊サービスが利用できること」、「自宅に医師が訪問して診療してくれること」、「通院などの際、送迎サービスを受けられること」等のニーズが高いです。

〔A調査〕問52 ずっと自宅で暮らし続けるためにあればいいと思う支援（複数回答）

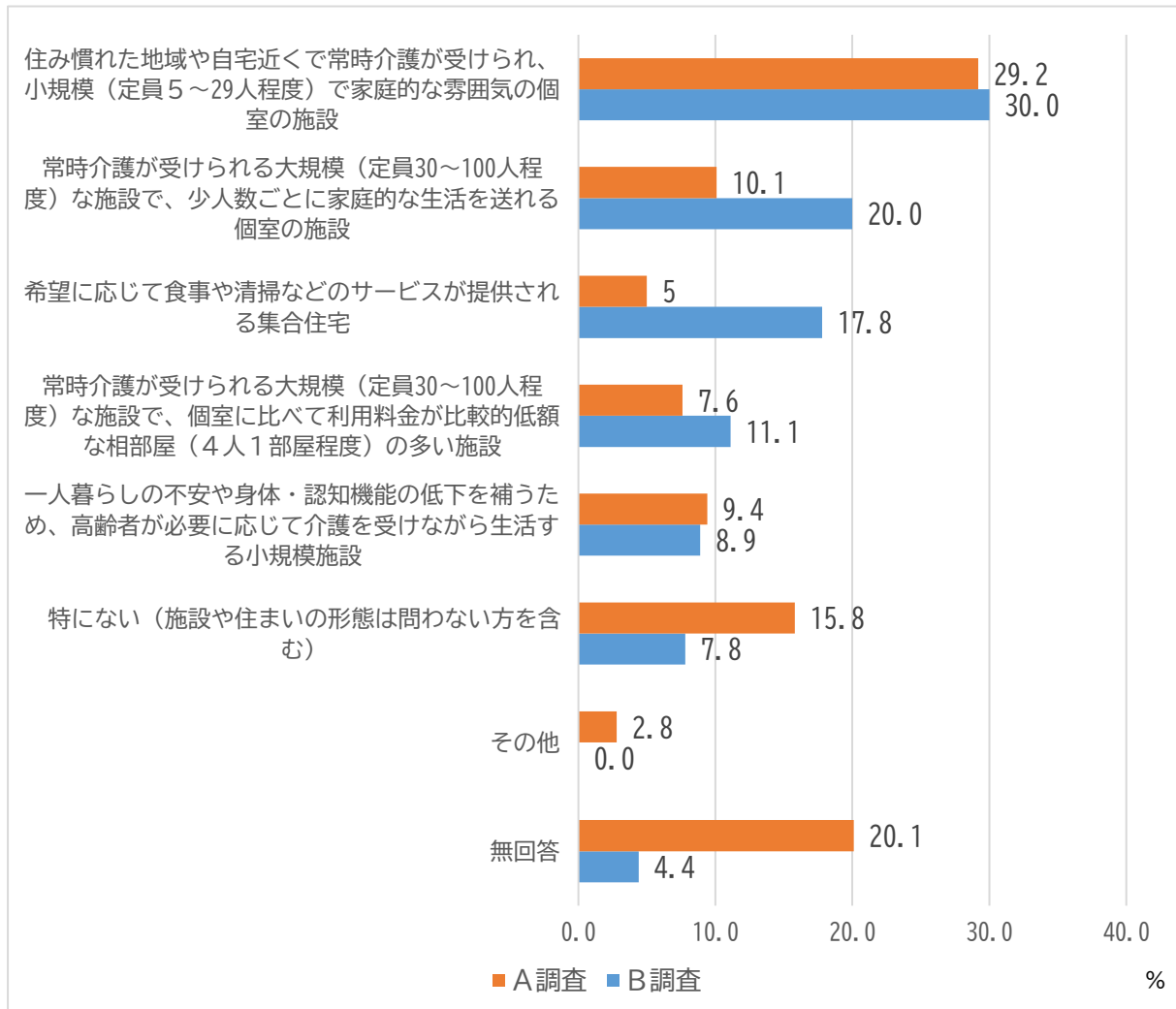


(7) 入所（入居）を希望する「施設」や「高齢者向け住まい」の形態

施設入所（入居）が必要となった時は、大規模施設（定員30人～100人程度）ではなく、小規模施設（定員5人～29人程度）を望む方が多くなっています。

〔A調査〕問51 最も希望する「施設」や「住まい」の形態、入所（入居）を希望する「施設」や「高齢者向けの住まい」の形態

〔B調査〕問49-4 最も希望する「施設」や「住まい」の形態



(8) 高齢者施策等について

施設整備のハード面に比べ、訪問系在宅サービス、通所介護、短期入所等、自宅での生活を継続するためのサービスの施策を望む声が多い傾向にあります（共助）。

また、A調査（要介護高齢者等）、B調査（元気高齢者等）ともに少数意見ですが、「隣近所の助け合いやボランティア活動の育成や活動の助成」と約1割の方が答えています。また、B調査（元気高齢者等）においては、「生きがいをもって活動できる場や働ける場の整備」と約2割（18.5%）の方が就労する意欲があります。（自助）

働くことにより、生きがいや社会とのつながりが生まれ、介護予防につながることから、今後の重要な施策の一つとして、就労支援や有償も含めたボランティア活動の提供等を検討していく必要があります。

なお、就労支援については、今後も高齢者は増加し、ますます介護事業の重要性が高まることから、人材育成も含めた施策を検討する必要があります。

〔A調査〕問57 今後、介護や高齢者に必要な施策

〔B調査〕問70 今後、介護や高齢者に必要な施策

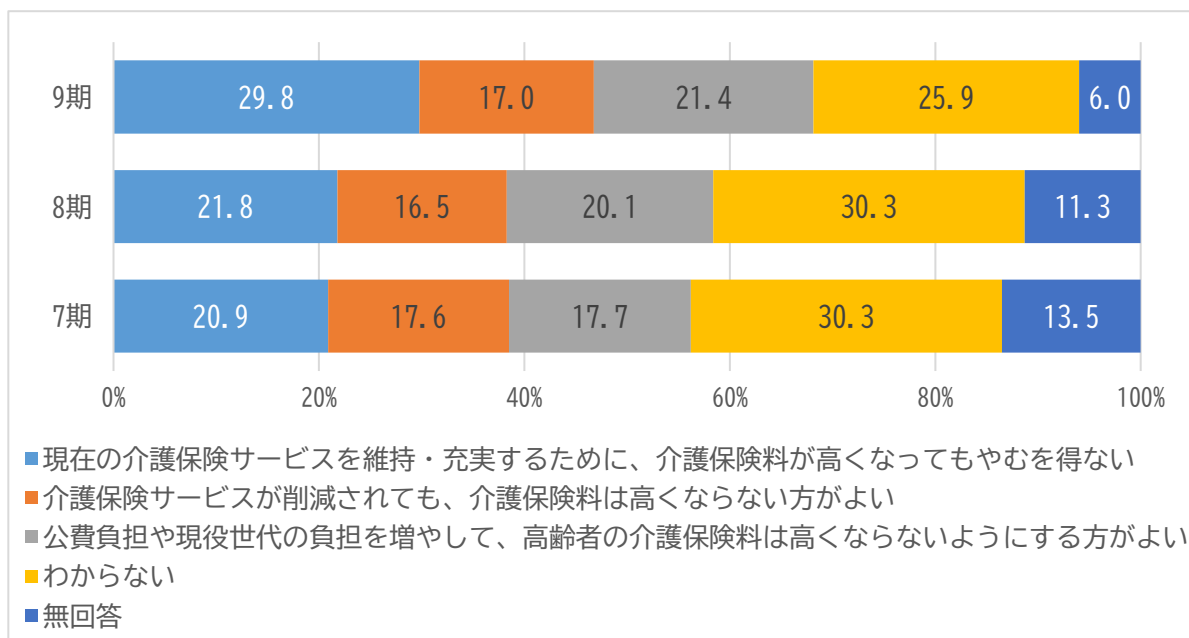
※A調査・B調査 複数回答（上位のみ掲載）



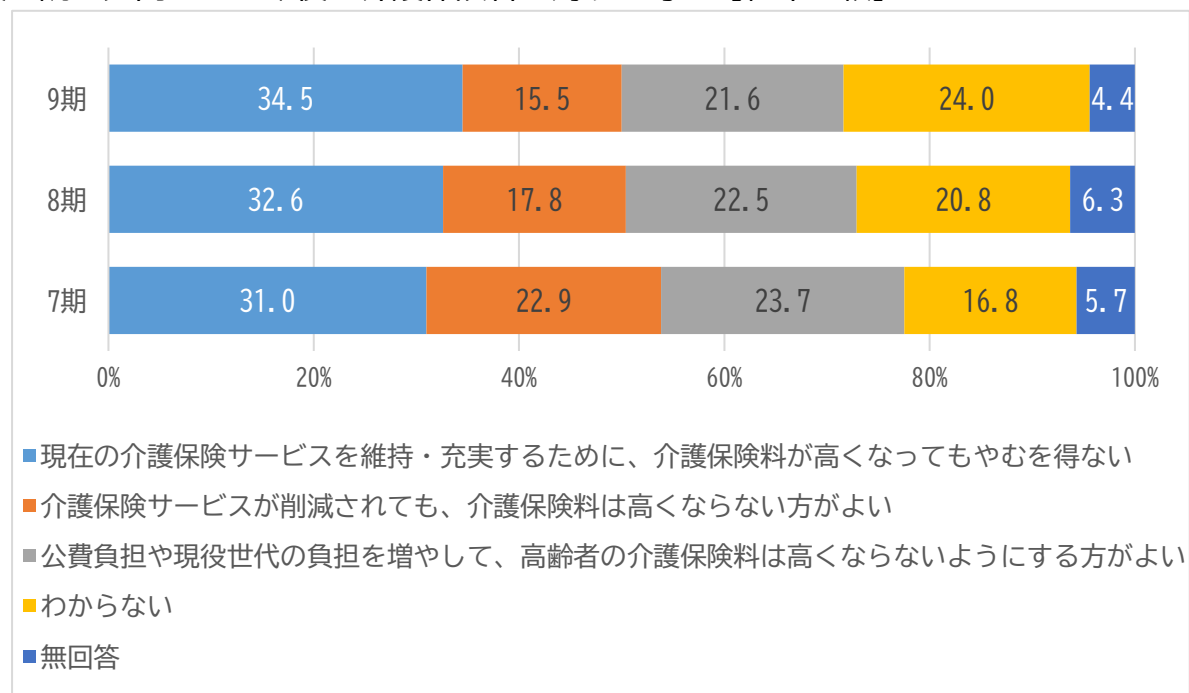
(9) 介護保険料に関する考え

介護保険料に関する考えは、A調査（要介護高齢者等）、B調査（元気高齢者等）ともに「サービスを維持・充実するために、高くなってもやむを得ない」と約3割の方が答え、経年で比較するとその割合が増加しています。一方で、「サービスが削減されても、介護保険料は高くないほうが良い」と答えた人は約2割となっています。

〔A調査〕問56 今後の介護保険料に対する考え【経年比較】



〔B調査〕問69 今後の介護保険料に対する考え【経年比較】

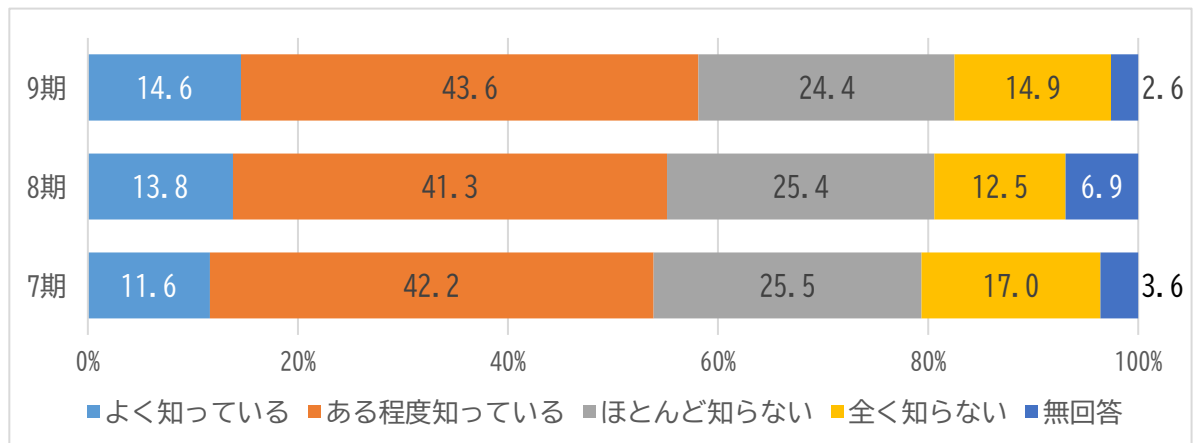


(10) 地域包括支援センターの認知状況等

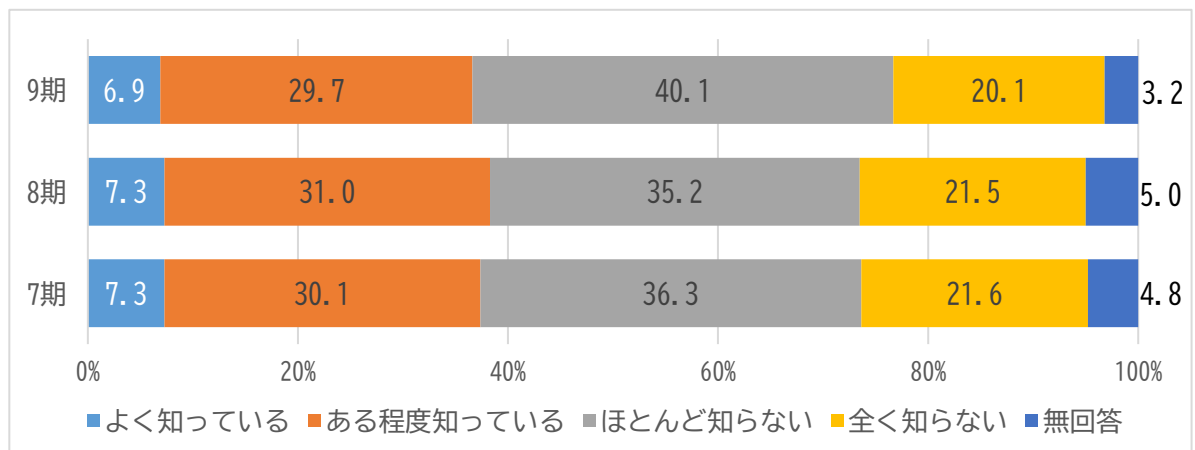
「よく知っている」、「ある程度知っている」を合わせると、A調査（要介護高齢者等）は約6割、B調査（元気高齢者等）は約4割と答えています。これは、普段の利用状況の差が出た結果だと考えられます。

また、「今後、地域包括支援センターに力を入れてほしいこと」の問いに対しては、A調査、B調査ともに「高齢の一般的な相談」や「病院や施設の入退院（所）に関する相談」と答えた人が多数を占めています。また、B調査において、「事業内容の周知」が最も多かったことから、地域包括支援センターの周知に力を入れる必要があります。

〔A調査〕問38 地域包括支援センターの認知状況【経年比較】



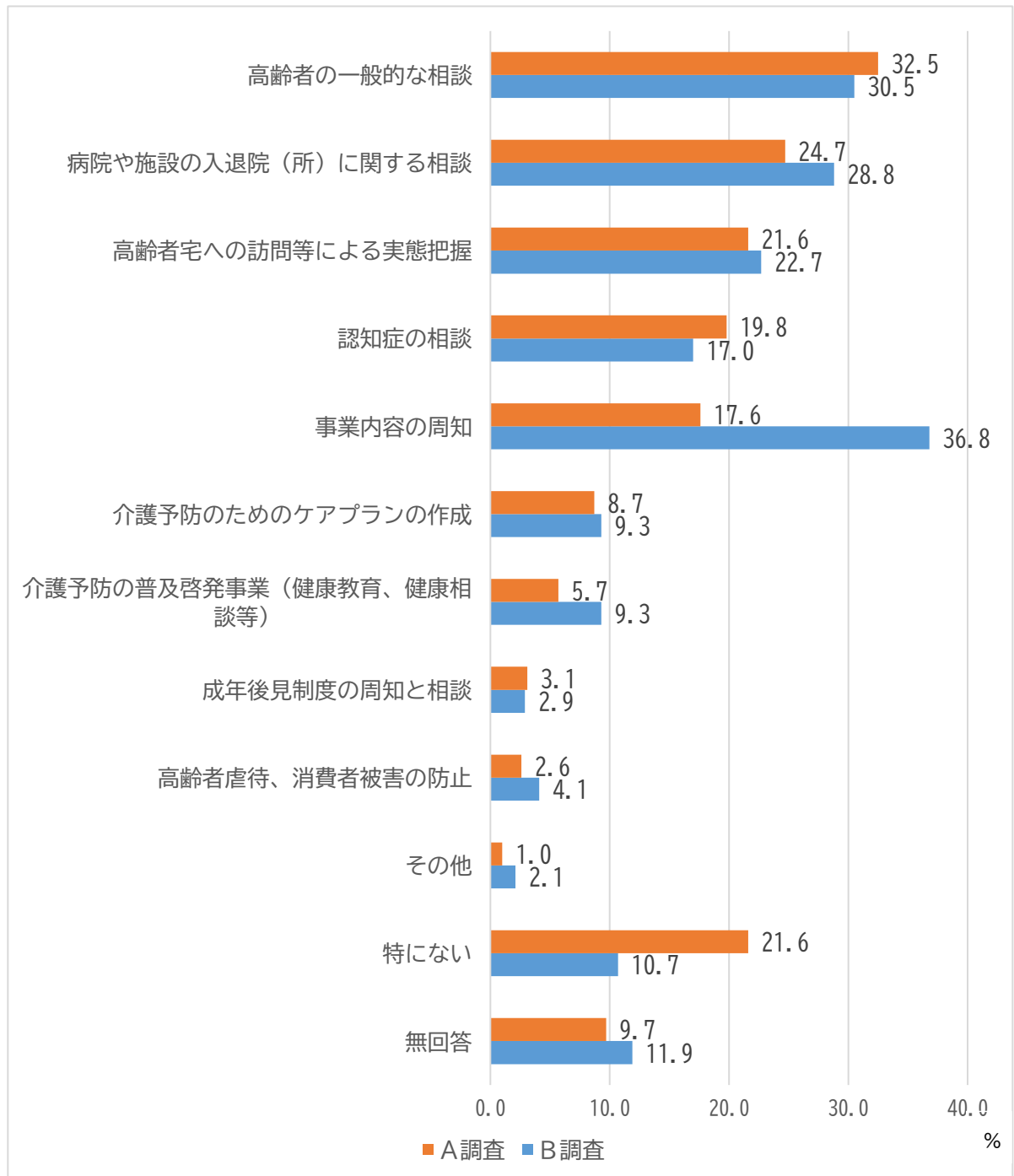
〔B調査〕問59 地域包括支援センターの認知状況【経年比較】



〔A調査〕問39 今後、地域包括支援センターに力を入れてほしい事業

〔B調査〕問60 今後、地域包括支援センターに力を入れてほしい事業

※A調査・B調査 複数回答



第1編 計画策定の基本的な考え方(案)

第5章 施策の体系

基本理念

松本市は、高齢者一人ひとりが住み慣れた地域で、健康で生きがいを持ち安心して自立した生活ができることを願い、市民と行政、さらに、「地域でつながるすべての関係者が「お互いさま」の精神で支えあう地域福祉づくりを進めます。そして、「暮らしが実感できる」「一人ひとりが自分らしく生き、シンカしながら支えあうまち」を目指します。

高齢者がいきいきと暮らせるために

高齢者が安心して暮らせるために

サービスを円滑に提供するために

基本目標

共に暮らし、共に助け合い、一人ひとりが輝ける街づくりを進めます。

健康で生きがいを持ち、自立した生活を送るための活動と支援を進めます。

心身や暮らしの状況に配慮したサービスや医療の提供を進めます。

2040年を見据え、安心して介護できる環境づくりを進めます。

基本方針(章)

誰もが住みやすいまちづくりの推進

つながり合い・助け合いの仕組みづくり

生きがいづくりの推進

介護予防・健康づくりの推進

認知症施策の総合的な推進

切れ目のない在宅医療と介護の連携推進

2040年を見据えた基盤整備(低負担でも入所できる施設整備等の推進)

安心して介護サービスが受けられるための環境づくり

計画推進体制の整備

介護保険サービスの見込み量

財源構成と介護保険料

施策区分(節)

- 安定的な住まいと足交通手段の確保
- ユニバーサルデザインのまちづくりの推進
- 地域課題の解決に向けた組織体制の強化
- 見守り体制の推進
- 相談体制の強化
- 低所得者への支援
- 権利保護・虐待防止の体制強化
- 社会参加や生きがいづくりの推進
- 住民主体の助け合いづくりの推進
- 就労支援
- 自ら楽しむ介護予防や健康づくりに参加する体制の推進
- 介護予防・生活支援サービスと地域資源を活用した自立支援の強化
- 地域包括支援センターの機能強化
- 認知症の共生と予防の推進
- 在宅医療・介護の連携推進
- 介護者支援の推進
- 施設・居住系サービスの整備
- 地域密着型サービスの整備
- サービス提供体制の確保
- 介護人材の確保と育成
- 積極的な情報提供の実施
- 介護支援専門員への支援と連携
- 介護給付適正化
- 苦情処理体制の充実
- 相談体制の充実
- 災害や感染症対策に係る体制整備
- 事業者・関係機関等との連携の強化
- 市民参加による施策の推進
- 市の推進体制の連携強化
- 介護保険サービス事業量の見込み
- 介護保険サービス費用の見込み
- 地域支援事業の事業量の見込み
- 地域支援事業の費用の見込み
- 財源構成と財政推進
- 第1号被保険者の介護保険料

主な事業(案)

- 地域主導型公共交通事業、高齢者住宅等整備事業、介護保険による住宅改修事業、有償運送運営協議会、福祉100円バス、AIデマンドバス事業等
- 公共案内サインのユニバーサルデザイン化、鉄道のバリアフリー化整備等整備事業、浜打ち歩道の改修事業、信州パーキングパーミット制度、地区公民館などの高齢者対策等
- 地域づくりセンター体制との連携、地域包括ケア協議会、地域ケア会議、地区支援企画会議、地域包括支援センター、地区生活支援員、協議体の設置、地域共生社会の実現に向けた取り組み、地区福祉ひろばコーディネーターによる支援等
- 訪問給食サービス事業、緊急通報装置設置事業、高齢者向け交通安全教室、自主防災組織、自主防災組織防災活動支援補助制度、救急医療情報キット支給事業、松本市地域見守りネットワーク事業等
- 民生委員・児童委員及び主任児童委員・町会との連携・消費者被害の防止、自立相談支援事業(生活困窮相談)、地域包括支援センター、地区生活支援員配置、認知症相談窓口の周知等
- 成年後見制度利用支援事業、社会福祉法人等による利用者負担軽減事業、自立相談支援事業(生活困窮相談)、家庭介護用品支給事業等
- 相談体制の強化、長野県弁護士会との連携、虐待対応の体制強化、高齢者・障害者虐待防止ネットワーク、消費者被害の防止、自立相談支援事業(生活困窮相談)、日常生活自立支援事業、成年後見支援センターとの連携、成年後見制度利用促進地域連携ネットワーク、成年後見制度のチーム支援、市民後見人の担い手養成等
- 生涯現役促進事業、老人福祉センター、福祉100円バス、高齢者クラブ、プラチナ大学、公民館活動、市民活動サポートセンター、福祉ひろば事業等
- 地域福祉推進交付金、人材育成講座の開催、生活支援コーディネーターと協議体等
- 特定健診、後期高齢者健診、がん検診、健康相談、予防接種、人間ドック、健康づくり事業(百歳体操)、シニア健康教室、エアロビクス教室、軽スポーツ・バラスポーツ、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施、熟年体育大学、プラチナ大学、国保スポーツジム支援、松本市立病院アンチエイジングプロジェクト、フレイル外来、フレイル予防事業、訪問疾患検診、がん患者支援事業、体力づくりサポーター育成事業等
- 介護予防・生活支援サービス事業、地域リハビリテーション活動支援事業、地域ケア会議の実施等
- 地域包括支援センター運営協議会、弁護士会との連携、PDCAサイクルによる効果的な運営等
- 認知症サポーター養成講座、認知症サポーターの活動促進(ステップアップ講座)、認知症初期集中支援チーム、認知症思いやり相談、認知症地域支援推進員、若年性認知症施策、認知症サポーター等をつなげる仕組み(チームオレンジ)、認知症カフェの開設・運営支援、徘徊高齢者家族支援サービス事業等
- 医療介護資源マップ、在宅医療・介護連携委員会、入院連携ルールと多職種連携シート等の活用による情報共有、人生会議・松本市版リビングウィル(事前指示書)の周知啓発、地域住民への普及啓発、等
- 認知症カフェの開設・運営支援、福祉用具等リユースあっせん事業、緊急ショートステイ、徘徊認知症患者等事業等
- 介護保険施設の整備、介護保険外サービスの整備等
- 地域密着型サービスの公募による事業者の指定、地域密着型サービス事業者の指定に係る関係者の意見の反映、リハビリテーションサービス提供体制等
- 生涯現役促進事業、ハローワークとの連携等
- 出前講座の実施、介護サービス事業者情報の提供等
- ケアプラン点検、指定居宅介護支援事業者の指定、包括的・継続的ケアマネジメント、個別地域ケア会議等
- 要介護認定の適正化、ケアプラン点検、住宅改修等の点検等
- 介護保険派遣相談員の派遣、各サービス事業者との連携、国民健康保険団体連合会(国保連合会)との連携等
- 介護110番、相談体制の充実、相談窓口の周知、地域包括支援センターの支援体制確保、自殺予防対策事業、にじいろのまち相談、消費者被害の防止啓発活動、等
- 応援隊員の派遣体制の構築、災害発生時や感染症発生時の介護施設等での対応にかかわる研修等の開催、福祉避難所・避難訓練等の実施、避難行動要支援者名簿等
- 健康づくり推進員、体力づくりサポーター等との連携、地区支援企画会議等
- 松本市社会福祉審議会(仮称)、地域包括支援センター運営協議会、市民活動セミナー、市民活動フェスタ等
- 地域包括ケア庁内推進会議、全世代型支援体制整備事業、産層的支援体制整備事業等

(協議事項)

高齢者の社会参加や就労支援への取り組みについて

1 趣旨

長野県の高齢者の就労状況は高い水準にあり、健康寿命とも関連もあると考えられています。さらに取り組みを進めるために、本市の現状と課題を明確化し、課題の解決に向けて協議するものです。

2 就労に関する現状について

(1) 第8期介護保険・高齢者福祉計画における目標値と高齢者実態調査の結果について (第3章 生きがいづくりの推進参照 P37～)

項目	令和2年度末 見込み	令和5年度 目標	令和5年度 実測値
収入のある仕事に就いている高齢者 (週1回以上)	24	30	31%
ボランティア活動への参加頻度 (月1回以上)	8.3	10	13.3%

(2) 令和4年度高齢者等実態調査の結果より (別冊2 P21～)

(3) 現状について (令和4年度生活支援体制整備委員会より)

ア ハローワーク

- ・70歳定年に向けて議論をしている。
- ・70歳以上の方が多く相談に来所する。
- ・60歳以上の雇用は、国の助成金制度を活用する、という企業が多い。
- ・高齢者に働き続ける元気を持っていただかないといけない。

イ シルバー人材センター

- ・「70歳を越えても働きたい」という方は増えているが、会員の数、このところ減少傾向。募集や説明会を行うが、なかなか増えていかない。
- ・デジタル化が急激に進んでいる。人のネットワークを対面だけで進める事は限界がきている。

3 目指す就労と社会参加のありかたについて

- (1) 高齢者の方が目指す社会参加とは何か
- (2) それに向けて、どんな取り組みが必要か

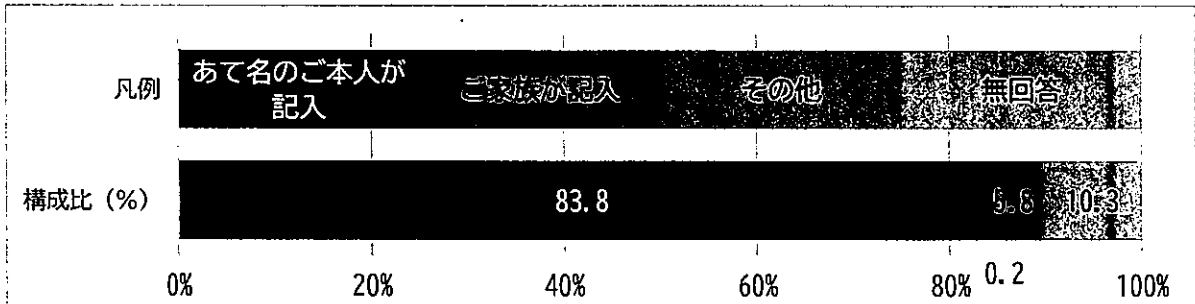
＜ R4年度実施分 ＞

Ⅲ 元気高齢者等実態調査

1 調査対象者数、回答者数、回収率

区分	対象者数 (人)	回答者数 (人)	回収率 (%)
	1,000	653	65.3

2 調査票記入者

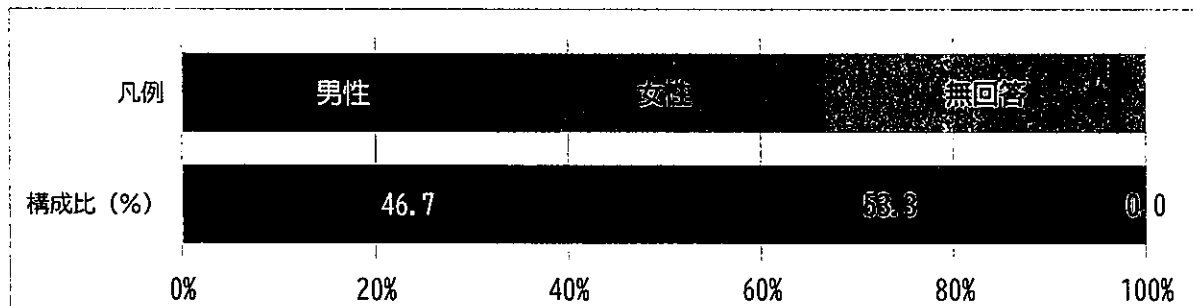


	全体	あて名のご本人が記入	ご家族が記入	その他	無回答
回答数(人)	653	547	38	1	67
構成比 (%)	100	83.8	5.8	0.2	10.3

3 基本属性に関する項目

(1) 性別

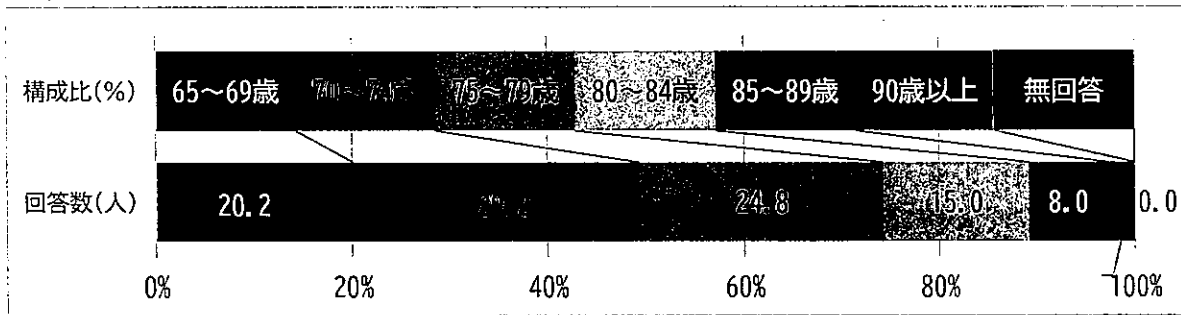
・性別構成は、「女性」が53.3%、「男性」が46.7%となっている。



	全体	男性	女性	無回答
回答数 (人)	653	305	348	0
構成比 (%)	100	46.7	53.3	0.0

(2) 年齢

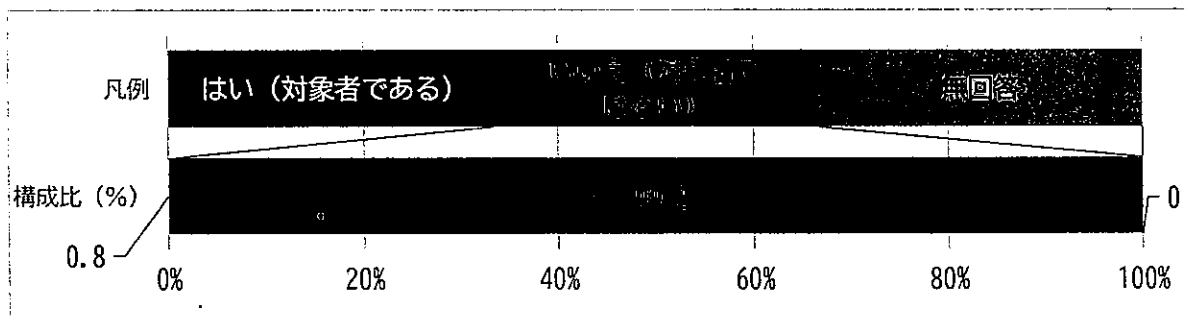
・年齢構成を見ると、「70～74歳」が29.2%と最も多く、次いで「75～79歳」が24.8%となっている。



	全体	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	無回答
回答数(人)	653	132	191	162	98	52	18	0
構成比(%)	100	20.2	29.2	24.8	15.0	8.0	2.8	0.0

(3) 介護予防・日常生活支援総合事業対象者

・「対象者ではない」が99.2%、「対象者である」が0.8%となっている。



	全体	はい(対象者である)	いいえ(対象者ではない)	無回答
回答数(人)	653	5	648	0
構成比(%)	100	0.8	99.2	0

地域での活動について

問17 お住まいの地域は、安心して生活できる地域だと思いますか

	全体	思う	思わない	無回答
回答数(人)	653	593	50	10
構成比(%)	100	90.8	7.7	1.5

問18 地域の会やグループへの参加頻度

	全体	参加している	参加していない	無回答
回答数(人)	653	300	350	3
構成比(%)	100	45.9	53.6	0.5

問18-1 (参加していると答えた方) 参加頻度

①ボランティアのグループ 13.3%

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	参加していない	無回答
回答数(人)	300	1	4	2	33	37	75	148
構成比(%)	100	→ 0.3	↑ 1.3	↓ 0.7	↑ 11.0	↑ 12.3	↓ 25.0	↑ 49.3
前回(R元)		0.3	0.5	1.8	5.7	6.5	61.7	14.6

②運動やスポーツ関係のグループやクラブ

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	参加していない	無回答
回答数(人)	300	15	34	29	31	24	60	107
構成比(%)	100	↑ 5.0	↑ 11.3	↑ 9.7	↑ 10.3	↑ 8.0	↓ 20.0	↑ 35.7
前回(R元)		3.2	5.8	5.8	6.8	4.0	81.7	13.6

③趣味関係のグループ

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	参加していない	無回答
回答数(人)	300	8	12	24	72	37	59	88
構成比(%)	100	↑ 2.7	→ 4.0	↑ 8.0	↑ 24.0	↑ 12.3	↓ 19.7	↑ 29.3
前回(R元)		1.3	4.0	6.6	14.1	6.1	54.0	13.9

④学習・教養サークル

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	参加していない	無回答
回答数(人)	300	2	3	5	29	20	104	137
構成比(%)	100	↑ 0.7	↓ 1.0	↑ 1.7	↑ 9.7	↑ 6.7	↓ 34.7	↑ 45.7
前回(R元)		0.3	1.1	1.5	7.9	3.9	69.9	20.4

⑤介護予防のための通いの場（福祉ひろば活動、お茶飲み会、サロン等）

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	参加していない	無回答
回答数(人)	300	2	-	4	30	34	104	126
構成比(%)	100	↑0.7	-	↑1.3	↑10.0	↑11.3	↓34.7	↑42.0

前回 0 0 0.2 3.1 7.6 70.3 18.3

⑥老人クラブ

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	参加していない	無回答
回答数(人)	300	-	1	-	13	31	129	126
構成比(%)	100	-	↑0.3	-	↑4.3	↑10.3	↑43.0	↑42.0

前回 0.2 0 0.2 3.1 7.6 70.3 18.7

⑦町内会・自治会

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	参加していない	無回答
回答数(人)	300	1	3	8	44	87	69	88
構成比(%)	100	↑0.3	↑1.0	↑2.7	↑14.7	↑29.0	↓23.0	↑29.3

前回 0.2 0 0.2 3.1 7.6 70.3 13.2

問18-2（参加していると答えた方のみ）歩いて行ける範囲にありますか

	全体	ある	ない	無回答
回答数(人)	300	177	88	35
構成比(%)	100	59.0	29.3	11.7

問19 社会参加活動や仕事の頻度

・社会参加活動は「地域の生活環境の改善（美化）活動」を「年に1~11回」参加する人が2割弱（18.8%）、仕事は「収入のある仕事を週4回以上」している人が2割弱（17.9%）となっている。

①見守りが必要な高齢者を支援する活動

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	していない	無回答
回答数(人)	653	5	3	5	17	12	404	207
構成比(%)	100	↓0.8	↓0.5	↑0.8	↑2.6	↓1.8	↓61.9	↑31.7

1.0 1.8 0.3 2.4 3.7 62.0 28.8

②介護が必要な高齢者を支援する活動

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	していない	無回答
回答数(人)	653	4	3	4	9	9	416	208
構成比(%)	100	↓0.6	↓0.5	↓0.6	↓1.4	↑1.4	↑63.7	↑31.9
		0.8	1.0	0.8	1.5	3.4	63.0	29.8

③子どもを育てている親を支援する活動

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	していない	無回答
回答数(人)	653	5	2	5	5	10	418	208
構成比(%)	100	↑0.8	↑0.3	↑0.8	↓0.8	↓1.5	↓64.0	↑31.9
		0.6	1.0	0.2	1.5	3.4	62.7	30.7

④地域の生活環境の改善(美化)活動

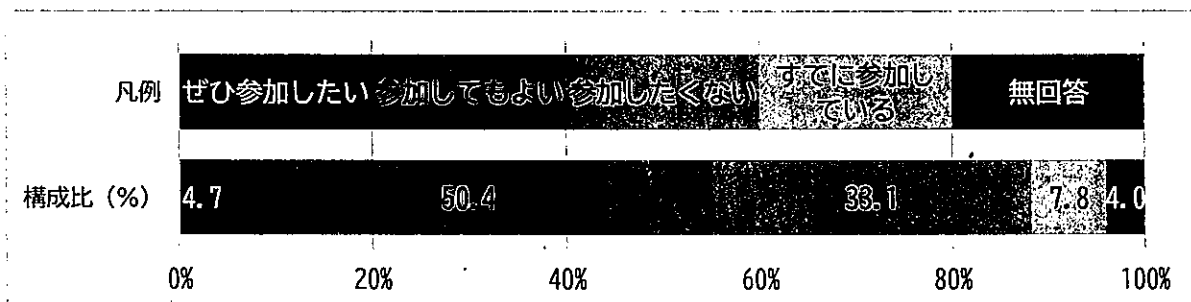
	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	していない	無回答
回答数(人)	653	3	2	4	23	123	309	189
構成比(%)	100	↑0.5	↑0.3	→0.6	↑3.5	↓18.8	↑47.3	↑28.9
		0.2	1.0	0.6	1.9	26.2	41.8	28.3

⑤収入のある仕事

	全体	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に1~11回	していない	無回答
回答数(人)	653	117	40	3	20	27	289	157
構成比(%)	100	↑17.9	→6.1	↓0.5	↓3.1	↓4.1	↓44.3	↓24.0
		17.0	6.1	1.6	2.4	3.6	44.7	24.6

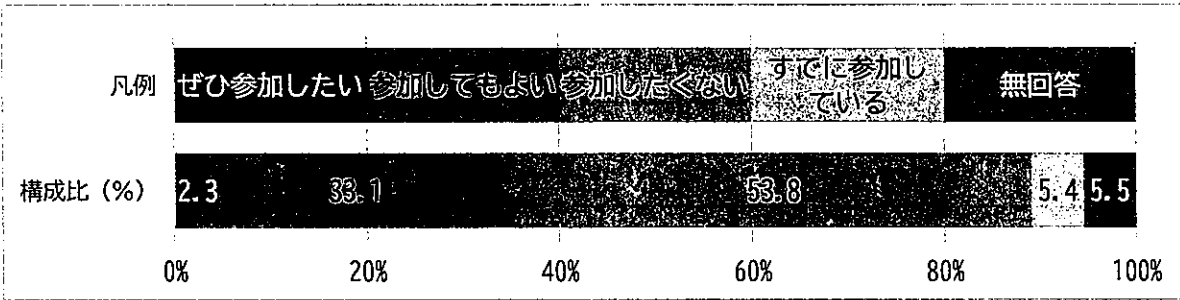
問20 いきいきした地域づくりへの参加意向(参加者として参加)

・「ぜひ参加したい」・「参加してもよい」が55.1%となり、半数を超えている。



	全体	ぜひ参加したい	参加してもよい	参加したくない	すでに参加している	無回答
回答数(人)	653	31	329	216	51	26
構成比(%)	100	↓4.7	↑50.4	↑33.1	↑7.8	↓4.0
		8.2	47.7	26.5	9.4	8.2

問21 いきいきした地域づくりへの参加意向（企画・運営（お世話役）として参加）



	全体	ぜひ参加したい	参加してもよい	参加したくない	すでに参加している	無回答
回答数(人)	653	15	216	351	35	36
構成比 (%)	100	↑ 2.3	↓ 33.1	↑ 53.8	↓ 5.4	↓ 5.5
		2.6	35.1	44.7	8.1	9.5

問22 参加したい活動（複数回答）

- ・参加したいと思う活動を見ると、「趣味、娯楽活動」が3割以上（30.6%）を占め最も多く、次いで「スポーツやレクリエーション活動」（23.7%）、「学習や教養を高めるための活動」（14.5%）の順となっている。
- ・「働くこと」は1割以上（15.2%）となっている。
- ・「特にない」は2割以上（27.1%）となっている。

	全体	② 働くこと	学習や教養を高めるための活動	① スポーツ・レクリエーション活動	趣味、娯楽活動	老人クラブ活動
回答数(人)	653	99	95	155	200	34
構成比 (%)	100	↑ 15.2	↓ 14.5	↑ 23.7	↓ 30.6	↓ 5.2
	619	12.3	21.2	23.4	32.1	8.6

	町内会、自治会活動	地域のボランティア活動	↑ サークル・自主グループによる活動	自分の知識や技術を生かした活動	↑ 若い世代との交流（学校訪問など）	その他	特にない・できない	無回答
回答数(人)	61	86	43	71	28	9	177	56
構成比 (%)	↓ 9.3	→ 13.2	↓ 6.6	↓ 10.9	↓ 4.3	↑ 1.4	↑ 27.1	↑ 8.6
	11.1	13.2	10.5	12.0	4.7	0	22.8	14.2

松本市社会福祉協議会が地区生活支援員と実施する人材育成講座等

1 全市的に開催する講座等

- (1) 地域デビュー講座（全4回）
- (2) ボランティア養成講座（R5年度＝子育て応援ボランティア養成講座）
- (3) 高齢者支援人材育成講座（R5年度＝傾聴ボランティアフォローアップ研修）
- (4) 「つむぎちゃんサポート」協力会員説明会（年2回）
- (5) 「つむぎちゃんサポート」協力会員スキルアップ研修会（年6回）
- (6) 被災地復興活動講座（地域ささえあい市民セミナー）

2 エリアで開催する講座

- (1) 高齢者支援サポーター養成講座（西部エリア＝全5回）

3 地区・町会単位で開催する講座等

- (1) 「つむぎちゃんサポート」説明会（随時）
- (2) “つむぎちゃん講座”（社協出前講座＝ ※ 別紙参照）
- (3) 新村サポーター養成講座（全4回）
- (4) 見守り安心ネットワーク事業（ささえあいマップ作成支援等）

4 学校（児童センター）・企業等で開催する講座

- (1) 福祉（体験）学習講座（やさしさ“つむぎ”プログラム）

5 その他

- (1) ボランティアセンター「ミニ講座」（“ボラセン♥サロン” 計画中）

【地区生活支援員（第2層生活支援 Co）配置後に人材育成講座を経て立ち上がった生活支援】

★ことぶきサポート（寿地区）

★助け合おうぜ！中山（中山地区）

"つむぎちゃん講座"



～社協の出前講座いかがですか？～

地区・町会・常会の集まりやイベントなどに社協の職員が出向いて講座を行います！
お気軽にお声掛けください！

No.	講座名	内 容	担当課
1	いざという時に備えて ～災害時あんしん講座～	災害時における身近な地域での助け合い活動や、炊き出し活動、命を守るための減災対策等についてわかりやすくお話しします。	地域福祉課
2	ボランティアセンターについて	ボランティアセンターの機能や役割、ボランティアを行う上での心構えや、保険などについてお話しします。	地域福祉課
3	災害ボランティアについて	災害ボランティアの活動や、活動する上での注意点などを体験や写真等をお話しします。	地域福祉課
4	傾聴のすすめ	「聴く」ことの重要性や効果について学び、傾聴ボランティアの実践につながるお話しします。	地域福祉課
5	回想法による認知症予防について	昔の写真などを用いた「回想法」の技法による認知症予防についてお話しします。	地域福祉課
6	炊き出しキャラバン隊	ボランティアの「炊き出しキャラバン隊」が地区等へ出張し、子どもや高齢者の食事支援や地域の交流の場のきっかけづくりを行います。	地域福祉課
7	社協つむぎちゃん劇団	ボランティアの社協つむぎちゃん劇団が地区等へ出張し、「電話でお金詐欺被害防止」などについてわかりやすく、楽しく公演を行います。	地域福祉課
8	福祉（体験）学習講座 「やさしさ"つむぎ" プログラム」	重い子体験、アイマスク体験、ユニバーサルデザインなどの体験学習を通して高齢者、障がい者などについて理解を深めていただきます。	地域福祉課
9	温かい気持ちのあなたに ささえあいのすすめ ～つむぎちゃんサポート について～	高齢者や障がいのある方などが、より快適な在宅生活を送れるよう、市民の皆様への助け合いによる有償生活支援事業「つむぎちゃんサポート」についてお話しします。	地域福祉課

10	みんなでいきいき集いの場 ～ふれあい・いきいきサロン～	地域の様々な世代の方々の集いの場である「ふれあい・いきいきサロン」を知っていただくためのお話をします。	地域福祉課
11	見守り安心ネットワークについて ～ささえあいマップの作成～	ささえあいマップづくりの作成支援などを通じて、身近な支え合いや助け合いの仕組みづくりの必要性についてお話しします。	地域福祉課
12	これからの生き方・暮らし方を考える	今後の人生を住み慣れた地域で安心していきいきと生活するために、エンディングノート（自分の人生の終末について記すもの）等を活用し、自らの人生を振り返り、明るい未来を考えていただきます。	地域福祉課
13	社会福祉協議会・社協会費について	社会福祉協議会の紹介や、「社協会費」の使い道などについて説明します。	地域福祉課
14	目赤活動資金について	赤十字活動を支えるために募集する目赤活動資金の使い道などについてわかりやすく説明します。	地域福祉課
15	赤い羽根共同募金について	「じぶんの町をよくするしくみ」である、地域で互いに支え合う制度として募集する共同募金の使い道などについてわかりやすく説明します。	地域福祉課
16	成年後見制度について	認知症になっても、障がいがあっても地域で安心して暮らせるように権利、財産を守るための成年後見制度について説明します。	生活福祉課
17	介護保険のしくみ	介護保険制度の概要や、サービスの種類、利用、社協が行う介護保険サービスについてわかりやすくお話しします。	在宅福祉課
18	障がい者の地域とのつながり	障がいのある方と共につくる共生社会や、社協が行う障がい者支援の事業についてわかりやすくお話しします。	障害福祉課

※所要時間は30分～1時間程度を基本としていますが、ご相談可能です。

【出前講座のご希望は・・・】

各地区の社協地区担当職員か地区生活支援員に直接ご相談いただくか
松本市社会福祉協議会地域福祉課

TEL 27-3381 Fax 27-2239 までお問い合わせください。

講座開催予定の1か月前までを目安にご相談ください。

地区生活支援員への生活支援体制整備事業に関する調査

1 町会サロン、福祉ひろば、いきいき百歳体操、助け合い活動がコロナ前の状態に戻っているか

(回答30地区)

ほぼ戻っている 27地区

どちらともいえない 2地区

戻っていない 1地区

- ・コロナで活動が一度止まってしまい、会員や役員の高齢化が進んだことで旗振り役がいなくなってしまった。
- ・福祉ひろば事業やいきいき百歳体操のサークル活動はほぼ戻っているが、町会サロンや出前ふれ健は戻っていない。

【理由】①町会役員がサロンの意義や運営方法がわからなくなってしまった。

②参加者が外出を面倒（または敏感に）と感じてしまい減少してしまった。

③役員等担い手に、町会福祉（地域福祉）の大切さが伝わっていない。（説明不足）

- ・3、4年の間に担い手も参加者も高齢化が進み、体調を崩していたり、施設に入所されたり、お亡くなりになるなどで戻りにくい。1からのスタートに近いので、改めて始めるのは難しい状態。

2 今年度、NPO、企業、医療法人、社会福祉法人、学校、商店などとコラボした活動を行う予定がある地区

≪第一地区≫

- ・相澤東病院（相澤東病院健康教室）

≪第二地区≫

- ・駅前交番、ベラミ人形店（七夕人形作成）、相澤東病院、松本山雅、長野県自動車販売店協会（交通安全教室）（ふれあい健康教室へ協力）
- ・富士の湯、菊の湯（銭湯サロン）

≪第三地区≫

- ・信毎ワークショップ
(まつせん和紙てまり講師=あがた児童センターと高齢者の交流)
- ・松本協立病院 (認知症講座)
- ・県ヶ丘高校 (市長懇談会で地区住民と「防災について」の語り合い)

≪中央地区≫

- ・松本大学学生
(夏祭り企画=青山様・ぼんぼんの継承、懐かしい屋台、花火大会)
- ・今井深山農業塾、四賀しののめの道バザール、会田養鶏、西堀町の店おほり、波田恋人の丘サラダマーケット (朝市活動に協力)

≪庄内地区≫

- ・とくし丸 (サロンおいでや)
- ・信毎ワークショップ (サロン居寄庵)

≪松南≫

- ・松本青年会議所 (こども食堂協力)
- ・戸部商店 (どこでも“えんがわ”事業)

≪田川地区≫

- ・丸の内病院 (サロン健康講和)
- ・松本協立病院 (介護予防教室)

≪新村≫

- ・「遊びにおいでよ笑和はうすへ」(こどもの居場所づくり)
- ・コムハウス (定期販売会)

≪神林≫

- ・戸部商店、J A松本ハイランド神林支所、生まれた日。(ケーキ屋)、社協にじいろ工房 (出張サロンへ協力)
- ・神林保育園、赤羽内科・神経内科医院 (ふれあい健康教室)
- ・NPO 法人熟年体育大学リサーチセンター (いきいき健康ひろば)
- ・NPO 法人ホットライン信州、(有) 気販 (ヒッポポ子ども食堂)
- ・松本警察署、松本信金二子支店、大沢会計事務所、J A松本ハイランド (パイナップルカフェでの講座)

《芳川》

- ・リハビリデイサービスぽっかぽか芳川（健康体操ぽかトレ）
- ・芳川営農（農業体験）

《寿》

- ・地区内高齢者3施設、障がい者福祉4施設、寿小学校
(福祉の文化祭)
- ・コムハウス、ねくすと、ハートライン松本（交流会、勉強会）
- ・シューマート、コタケ、信栄食品、障がい者施設販売
(みんなのマルシェ)

《岡田》

- ・信州大学学生（スマホ教室・会食）

《内田》

- ・内田保育園（福祉ひろばと交流）
- ・松本ホテル学会（藤山静雄氏＝ホテル学習観察会）
- ・中学生ボランティア（ササラまつり、大運動会、文化祭）

《松原》

- ・地区内グループホーム（オレンジカフェの在り方検討）

《梓川》

- ・梓の郷（「コミュニティスペースよりみち」での町会サロン）
- ・梓川中学校（高齢者困りごと調査協力）
- ・ソーシャル・コミュニケーション・カレッジ SCC 松本校
(地域高齢者との関り)

《波田》

- ・波田小学校（「大いなる波田健康体操の普及」）
- ・梓川高校（高齢者サポーター養成講座参加、防災（炊き出し）学習）

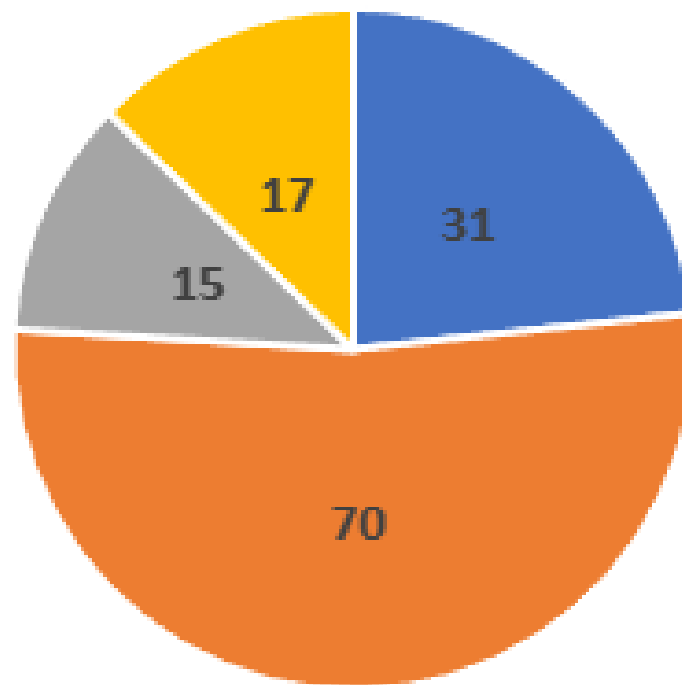


とまり木の日

令和5年度 第1回生活支援体制整備委員会
(兼第1層生活支援コーディネーター協議体会議)

NPO法人
サポートセンターとまり木
0263 - 50 - 6747

年齡層



■ 18-39 ■ 40-64 ■ 65over ■ 不明

なぜ今『居場所づくり』が求められるか

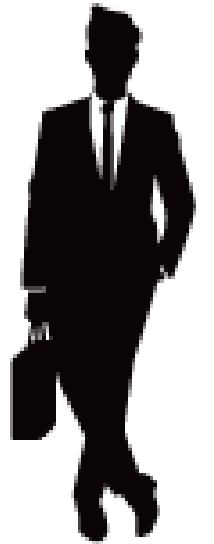
①雇用構造変化

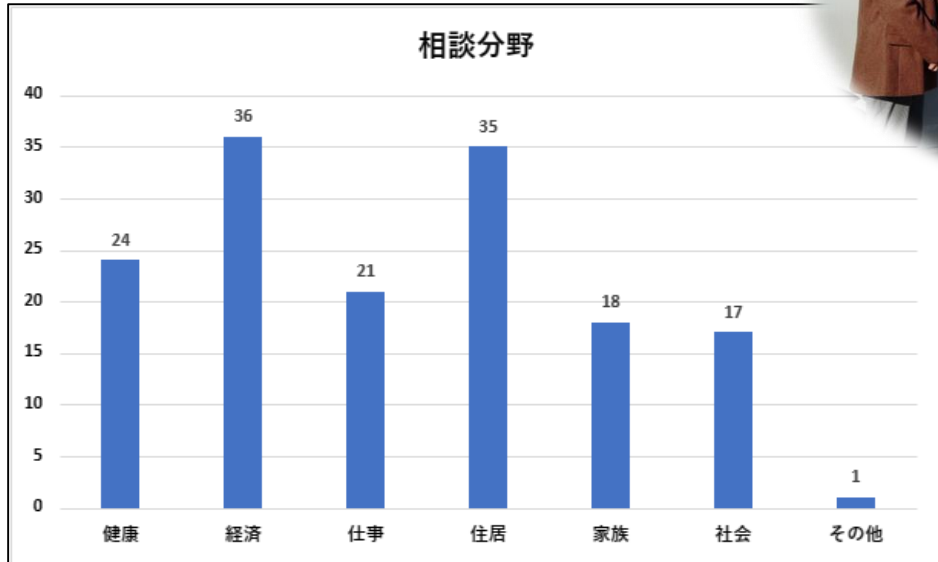
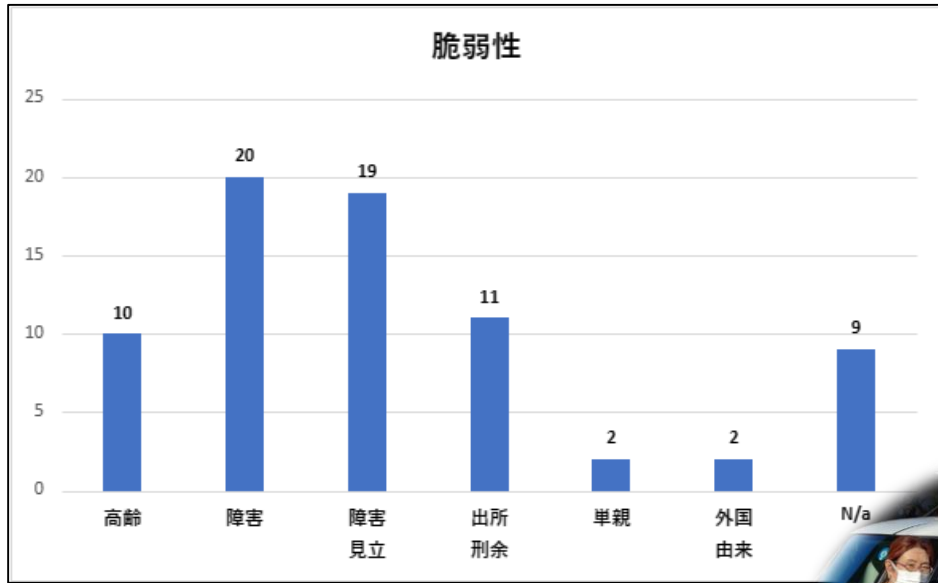
(終身雇用・年功賃金・福利厚生の縮小→「社縁」の縮小へ)

②家庭構造変化

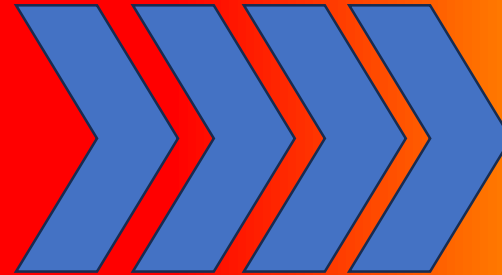
(男女とも長時間労働へ/結婚経験者の1/3が離婚経験
→独親の増加・「血縁」の縮小・複雑化へ

③社会保障変化

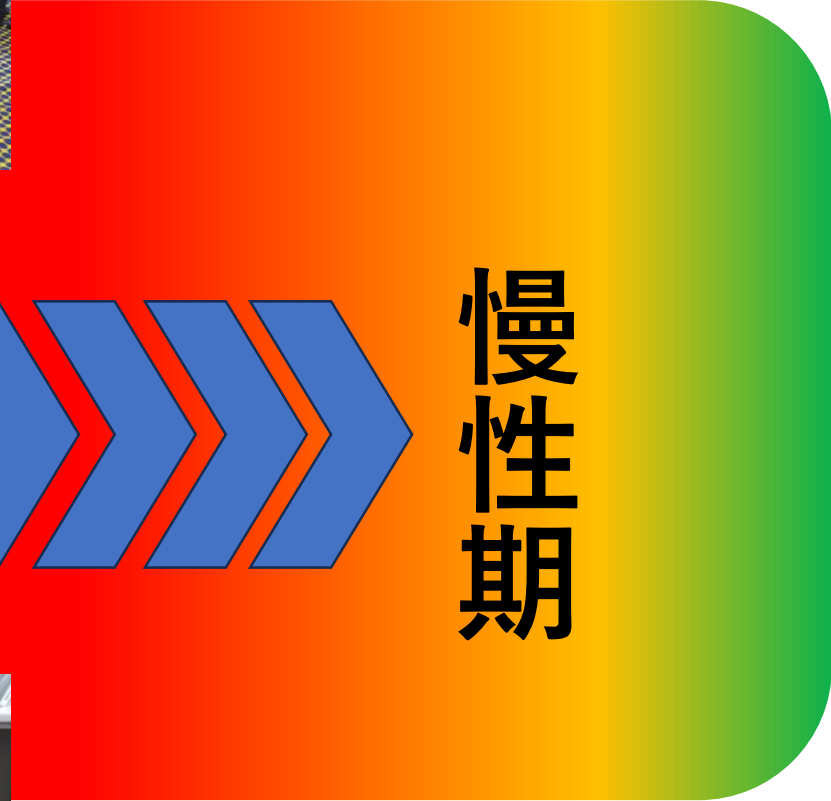




急性期



慢性期



『地域創り』へと繋がる居場所とは

「誰でも参加ください」の場の居心地の悪さは何なのか

- ・ 「誰でも」と言いつつ高齢者向け話題・コンテンツ
- ・ 町会から隔離されるアパート・マンション住民（基本が村八分）



障害
ひきこもり
失業・困窮
外国由来
DV・虐待被害
独親

発見のアンテナ
非審判の姿勢

トラウマインフォームドケア
やさしい日本語

「誰でも居ていい場」に僕がいられる条件とは・・・

とまり木カフェ

水曜カフェ

テーマ

- 誰でも参加できるのんびりおしゃべり。
- とまり木カフェのスタンダード

作風

コーヒーのみながら近況や近頃気になる話題を

ファシリテーター

川本恵子
(波多教会牧師)



とまり木カフェ

ハンドメイドカフェ

テーマ

てづくりチャレンジ
働けなくても人とのかわりが苦手でも、つくる楽しみができるので

作風

アクリルやレジンアクセサリ、クリスマス飾りなど毎回さまざまなてづくり作品の制作にチャレンジ

ファシリテーター

末次 さとみ
(小学校教員)



とまり木カフェ

午後の紅茶カフェ

テーマ	貧しくても孤独でも、優雅でハイソでオシャンティーな時間を
作風	いつかは優雅でハイソでオシャンティーになるのか？
ファシリテーター	小林 美紀 (元気な姉さん)



2023. 4 - 6月実績

実施実績					参加者結果							効果			
日付	カフェ分類				のべ参加者数	実人数 (新規参加累積)	参加者属性 (重複あり)					相談との接続			
	火曜解放	水曜カフェ	ハンドメイド	午後の紅茶			子ども	困窮	障害	高齢	N/a	支援継続中	支援後フォロー	再相談	新規相談
4月合計	2	4	1	1	27	9	0	7	0	0	5	12	10	0	0
5月合計	4	4	1	1	41	2	0	33	20	8	10	18	14	0	0
6月合計	3	4	1	1	39	1	0	36	32	3	3	15	20	12	0
計	9	12	3	3	107	12	0	76	52	11	18	45	44	12	0
実施回数	27														



夏祭り
(2020)



地域文化祭バザー
(2021)



たいまつ祭
(2022)



菜の花収穫
(2023)